

《担当者名》○鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 小島 悟

【概要】

入学後、初めて受講する理学療法（士）に直結した専門科目の授業である。理学療法士として業務を行うために、理学療法の定義や歴史、具体的内容について学ぶ。

【学修目標】

Ⅰ 一般目標

医療機関や施設、地域における理学療法業務の概観を理解するために、理学療法の定義と歴史、社会全体における理学療法の役割について説明できる。

行動目標

1. 理学療法（士）とは何か、理学療法の具体的内容や業務範囲について説明できる。
2. 専門職としての理学療法士に関する臨床的思考過程、理学療法実践過程について説明できる。
3. 理学療法士の教育体系について説明できる。
4. 理学療法士に必要な管理及び運営の方法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション、理学療法の歴史と定義、構成する各種技術	オリエンテーション、理学療法の歴史と定義	鈴木英樹
2	理学療法とリハビリテーション	理学療法とリハビリテーションとの関連性	鈴木英樹
3	理学療法と障害	理学療法と障害との関連性	鈴木英樹
4	理学療法士に関連する法律	理学療法に関連する法律や関係法規	小島 悟
5	理学療法士の役割	理学療法士に求められる使命と倫理 理学療法士の対象	鈴木英樹
6	理学療法の実際の流れ	理学療法過程とクリニカルパス	鈴木英樹
7	医療、教育、研究現場での理学療法士	医療、教育、研究現場での理学療法士の実際の活動	鈴木英樹
8	保健、福祉、スポーツ現場での理学療法士	保健、福祉、スポーツ現場での理学療法士の実際の活動	鈴木英樹
9	実際の現場の様子について知る	実際の臨床現場での活動	鈴木英樹
10	理学療法士の職能	理学療法士で組織される職能団体	鈴木英樹
11	理学療法（士）教育	理学療法（士）教育体系や課題	小島 悟
12	理学療法士と研究	理学療法士に研究が必要な背景	小島 悟
13	理学療法に必要な管理や運営	理学療法と報酬	鈴木英樹
14	理学療法学科教員・先輩に学ぶ	理学療法学科教員・先輩をゲストに招き、理学療法士になったきっかけや業務内容、専門分野について学ぶ	鈴木英樹
15	まとめ	臨床実習（見学実習）に行くに当たって、様々な施設の概要や理学療法士の果たすべき役割を学ぶ	鈴木英樹

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

細田多穂 監修 中島喜代彦 他 編 「理学療法概論テキスト 改訂第3版」 南江堂 2017年

【参考書】

上田敏 著 「目で見るリハビリテーション医学」 1994年
日本リハビリテーション医学会 編 「リハビリテーション白書」 2013年
中村隆一 著 「入門リハビリテーション概論」 医歯薬出版 2009年
砂原茂一 編 「リハビリテーション概論」 医歯薬出版 2000年
奈良勲 編 「理学療法概論」 医歯薬出版 2013年
竹内孝仁 編 「図解リハビリテーション事典」 廣川書店 1993年
細田多穂 他 編 「理学療法士プロフェッショナルガイド」 文光堂 2003年
日本理学療法士協会 編 「理学療法白書」 2013年

【備考】

受け身の学習ではなく、自ら学ぶことに主眼が置かれているので、積極的に授業へ参加すること。
毎回、講義の初めに前回振り返りの小テストを行うのでしっかりと復習して講義に臨むこと。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んでおくこと（80分）。
復習は、教科書やプリントを活用し学習を深めること（80分）。
定期試験及び追再試実施後、問合せがあった場合には模範解答を提示する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹（理学療法士、専門理学療法士、認定理学療法士）
小島 悟（理学療法士、専門理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関や行政機関での実務経験を活かし、理学療法及び理学療法士の実践内容や実践分野について具体的な内容を講義する。